

ファンがつくる 金沢競馬をもっと楽しむ情報誌

遊馬友 PLUS

協力: 金沢ホースマンクラブ
協賛: 金沢競馬振興協議会
発行者: 遊馬友プラス編集部

無料

ご自由にお持ちください

www.kanazawakeiba.com

九月二十三日(火)

第四十四回 白山大賞典
(JpnIII)

出張ウマフリ

金沢競馬で感じた血のロマン

ウマフリ代表 緒方きしん

2024年9月

vol. 55

※ご意見、ご感想をお寄せください
宛先 E-Mail: yushun.plus@gmail.com
<http://sites.google.com/site/yushunplus/>

Photo by miwa



二歳戦線 本格化

二歳重賞も始まって二歳戦線がいよいよ本格化してきた。

来年の石川優駿、西日本三歳優駿などの三歳戦線を見据えた戦いが進んで行く。そんな戦いを進める二歳馬達を見てみる。

今年最初の二歳重賞、石川テレビ杯を制したのはヘニーヒューズ産駒の牝馬ビバロジータ。スタートから最初のコーナーに入るまでにハナを奪うとそのまま先頭を譲らず、最後の直線でも後続を引き離して三馬身差の完勝で世代重賞一番乗りを果たした。



ビバロジータ

Photo by miwa

この勝利でネクストスター金沢への優先出走権を得て世代の中で一歩抜き出た形。門別からの移籍が吉と出ているようだ。



シウガマツタナシ

Photo by miwa

この石川テレビ杯でビバロジータは二番人気。一番人気は地元デビューのナムラタイタン産駒の牝馬シウガマツタナシ。六月に金沢でデビューするとそのまま土つかずの四連勝。同厩舎、同馬主の先輩シウガタップリのような連勝街道を突き進むかと期待されたが一旦停止。四一〇キロ台の馬体ということもあって今後さらなる成長が見込まれそう。石川優駿、その先の西日本三歳優駿での栄光を期待したい。

石川テレビ杯二着のディーマジエスティー産駒の牝馬エムティパールもこの後の重賞での活躍が見込めそう。最後の直線でシウガマツタナシ

シを交わした勝負根性はお見事の一

四六〇キロ台と世代の中では大きなその馬体には将来性が詰まっている。ビバロジータ同様に門別からの移籍で金沢の中心を狙う。

石川テレビ杯に出走していない馬の中で今に見ていると言いたそうなのがゴールドドリーム産駒の牝馬エムザックドリーム。これまで五戦して【一三一〇】と安定感抜群だが、敗れたレースの勝馬が全てシウガマツタナシ。常にその後塵を押し続けてきた。マツタナシ不在のレースでは二着に二秒二差のぶつぎりで大差勝ちをしており抜きんでた力はある。マツタナシに敗れ続けているがその着差は確実に縮まってきている。重賞戦線の後半、三歳戦線での逆転も望む。

未知の可能性に満ちていそうな存在が石川テレビ杯五着アポロケントッキー産駒のアメリカンゲビユー。後方からレースを進めて最後の直線をメンバー最速の上りタイムで追い込んでの五着入線は夢を見たくなる末脚。このレースは新馬勝ちの次戦でキャリア二戦目。経験を積んでいけば生え抜き勢、移籍勢にも負けない力がありそうで今後の動向が注目される。

の牝馬モカチャン。六月のデビューから二戦二勝。二戦とも後続に六馬身差の圧勝とそのスピードは相当なもの。さらにその圧勝した相手がいずれも石川テレビ杯四着に入ったオールブラッシュ産駒の牝馬ベストタンゴ。彼女を物差しにすると重賞でも掲示板には入ってくる力は持っている。二戦目で馬体重が四〇〇キロとまだまだ小柄。今後の成長で体を大きくさせた時に今までの勢力図を塗り替えそうな予感のする一頭だ。牝馬が強い金沢と言われているが



ここに登場した馬は全部牝馬。今年もこれから牝馬優位で回りそう。ただ、二歳戦で活躍しても三歳では他場に移籍して不在となって三歳戦線が一転混戦模様になったり、ハクサンアマゾネスのように三歳デビューから既存勢力をまとめて倒してしまったり、今年の石川優駿馬ナミダノキスのように三歳で移籍して一気に頂点に立つ馬が登場したりすることもあるのが金沢。

※実績等は九月十三日現在

彼女の人気は金沢だけに留まらず、全国の地方競馬ファンにも広がっていたのだなど改めて思う。西日本ダービーから勝利は遠のいていたが、結果的に最後のレースにシナニモノの二着で近いうちに十三勝目を上げ、金沢の新女王の階段を駆け上がっていくものと期待していたがそれも叶わぬ夢となった。彼女を失った悲しみ、喪失感は深い。しかし、金沢のコースを見れば今日も馬が走っている。金沢の同期で唯一彼女に先着をしたダイヤモンラインなどこれから金沢の頂点を目指す馬はいる。早世した彼女を思いながら、また彼女のような活躍を見せる馬の登場に期待したい。

白山大賞典

出走予定馬紹介

中央馬篇

▼ディクテオン (セン六歳)

浦和と名古屋で重賞二勝、今年帝王賞三着の実績。三歳で中央デビューするも勝てずに名古屋へ移籍。中央に復帰して五歳で重賞制覇。六歳でG1三着と晩成型がいよいよ花を開いてきた感じ。ダートグレードでは掲示板を外したことはない安定さを見せている。母メーディアは金沢で行われたJBCレディスクラシクの勝馬。母が活躍した舞台で自身も活躍となるか。

▼ダイシンピスケス (牡六歳)

初勝利は川崎、二勝目は船橋と全国を転戦とした栗東馬。昨年末から二勝クラス、三勝クラス、OPと三連勝で一気にクラスを駆け上がる。三連勝は逃げや二番手からの抜け出しで前有利の金沢にびったり。距離も前走二〇〇〇mを勝っているのので心配無用。白山大賞典で過去に結果を残してきた中央の上がり馬。初の重賞挑戦だが期待はできそう。

▼メイショウフンジン (牡六歳)

前年の二着馬が悲願の重賞初制覇を金沢で狙う。今年に入ってもリステッド競走で逃げ切り勝ちを見せるなど逃げてのしぶとさは健在。馬券

圏内に入った三走は四番人気、七番人気、十番人気と軽視すれば痛い目に合う。昨年のような走りを見れば結果は自ずとついてくる。あっと言わせることができるか。

▼サンマルパトロール (牡四歳)

初勝利は笠松。八月に連勝でOP入り。勢いはダイシンピスケスに負けてはいない。連勝は差し、追込で決めているが直線の短い金沢でどのようなレースを展開できるかがカギになりそう。一八〇〇m前後が主戦場で二一〇〇mこなせる。自身もそうだが、父ビーチパトロールも産駒の重賞初挑戦。父子で初重賞制覇なるか注目。

▼テンカハル (牡六歳)

昨年日本テレビ盃二着、浦和記念三着とダートグレードでは今一步な状況が続いている。前走十四着大敗は

芝なので度外視でOK。前々走のマーキュリーCは早めに前を捉えに行つて力尽きての四着。こちらも直線の短い金沢での立ち回りが大きなカギとなりそうか。中央で二一〇〇mを二勝しているのでこの舞台は合うはずだが、はたして。

白山大賞典

出走予定馬紹介

他馬場篇

▼ケイアイパープル (牡八歳)

白山大賞典を制してから二年。その間に北海道へ移籍して今年の八月にその白山大賞典以来の勝利を大差で飾る。八歳でも地方では力は一枚上でまだまだ老け込む歳ではない。三年連続出走の白山大賞典。昨年の四着を超える成績を残して復活の狼煙を上げ、再びダートグレード戦線への殴り込みを狙う。



ケイアイパープル

▼アンタンスルフレ (セン六歳)

昨年北國王冠連覇からの三連勝は見事だった。しかし、今年に入ると思うような走りができず、地元重賞でも掲示板がやつとと言う状態。思いの金沢で忘れた走りを取り戻すきっかけとしたいが。

シンコーマーチャン (牡十歳)
【金沢】
オートヴィル (牡九歳)
ラバタンシン (牡四歳)

補欠馬篇

【中央馬】
アウトレンジ (牡四歳)
グリユーヴルム (牡五歳)
サンマルレジェンド (牡六歳)
ブラックアーメット (牡六歳)
ミスティックロア (牡四歳)

【名古屋】

ソルトゴールド (牡五歳)
ファルコンウイング (牡七歳)
ミストラルウインド (牡七歳)
モズプラチナ (牡七歳)

【金沢】

パディオアヘッド (セン七歳)
マイネルヘリテージ (牡五歳)

【名古屋】
その他の出走予定馬篇

※いずれも九月十三日現在



メイショウフンジン

白山大賞典

出走予定馬紹介

地元馬篇

▼ヴェレノ (牝五歳)

佐賀の重賞ロータスク라운賞を制してから二年。この日以来勝ちを上げることはできていない。全国交流でも地元限定重賞でも結果は出ずにここも相当に厳しそう。金沢の実績馬として頑張つてほしい。



特別寄稿

金沢競馬で感じた血のロマン

ウマフリ代表 緒方きしん

二〇一七年に創設された石川ダービーが、今年から石川優駿に改名された。ただ、この名前の変更よりも、むしろ今年が第八回だったことの方が驚いた。ウマフリの設立が二〇一六年だったせいかな、どうしても石川ダービーは新しいレースのイメージがある。ここから長く歴史を積み重ねていってほしいと思っただけの時から、すでに八回もの歴史を重ねたわけである。

さて、「石川ダービー」としてのラストの王者はショウガタツプリーで、「石川優駿」としての初代王者はナミダノキスだった。ショウガタツプリーは金沢デビューで十連勝での戴冠、一方でナミダノキスは中央デビューで四月に移籍してから四連勝で戴冠した。前者は一番人気で四馬身差の完勝、後者は二番人気でゴール前の差し切り勝ち。歩んできた道のりもレースぶりも異なるタイプに思える新旧三歳チャンピオンだが、この2頭を並べた時、とある共通点を見つけて嬉しくなった。

その秘密が隠れているのは血統表

だ。ショウガタツプリーはエスポワールシチー産駒、ナミダノキスはホッコータルマエ産駒。ここまで書くところ『遊駿+』愛読者の皆様ならピンとくるかもしれない。この二頭、どちらも二〇一三年の金沢JBC勝ち馬の産駒なのである。

二〇一三年は、エスポワールシチーは八歳でホッコータルマエが四歳。ホッコータルマエは三歳冬にジャパンカップダートで三着に食い込むと四歳にGIIIを三連勝と、次世代のダート界を担う存在として期待を集めていた。一方のエスポワールシチーは四歳から五歳にかけてGI級を五連勝するなど王者として君臨。七歳でもかしわ記念や南部杯を制して強さを示していた。

新旧王者として火花を散らしていた二頭はこの年のかしわ記念で激突して一着ホッコータルマエ、二着エスポワールシチーとタルマエに軍配。しかし秋には南部杯で一着エスポワールシチー、二着ホッコータルマエと逆転。まさに両雄並び立たず、といった状況だ。しかしその二頭は金沢ではエスポワールシチーがJBCスプリント、ホッコータルマエがJBCクラシックに進んだ。これでこの二頭のダート王者が「両雄並び立つ」事になったのである。

そのJBC金沢の覇者二頭の産駒

が時を経てそれぞれ金沢競馬の世代トップに輝いた。この二頭が激突することになればと思っていた矢先、ショウガタツプリーの訃報が舞い込んだ。金沢競馬を盛り上げた名牝との突然の別れが残念でならない。

そして、二〇一三年の金沢JBC勝ち馬「C勝ち馬」といえば、もう一頭忘れてはいけない存在がいる。JBCレディスクラシックを制したメーディアである。牝馬限定のダートグレードを四連勝して挑んだJBCも圧倒的一番人気に应运えて勝利。女王たる堂々たる競馬を見せてくれた。

引退後、繁殖牝馬となったメーディアは母としても活躍。第二仔から早くも重賞馬ディクテオンを出したのである。そのディクテオンが金沢の白山大賞典に挑戦するというのだから、これも血統のロマンを感じてしまう。

8月末現在、白山大賞典にはディクテオンだけでなく、昨年出走したホッコータルマエ産駒メイショウフンジンとエスポワールシチー産駒ペイシャエスも出走を予定している。もし出走が実現すれば、金沢JBCに非常に縁深い白山大賞典になる。

こうなってくると、二〇二一年の金沢JBC勢にもロマンを期待したくなる。クラシックの覇者ミュー

チャリーこそ誘導馬となり血を残せなかつたものの、スプリントの覇者レッドルゼルはイーストスタッドで、2着のオメガパフュームはレックススタッドで種牡馬となった。レ

新刊のお知らせ

『アイドルホース列伝 超 1949-2024』

小川隆行+ウマフリ 星海社新書

アイドルホース、と言われるほどの馬を思い浮かべるだろうか。最強馬と言われた馬、実力はあるけどGIには届かない馬、地元の競馬場でトップを走る馬……。

アイドル性を見出す基準は人それぞれ。当然思い浮かべる馬も人それぞれ。アイドルホースを紹介するとなれば取り上げる馬の数は多くなる。

本書では中央、地方を問わず大レースを制した馬から栄冠には届かなかった馬、多くのファンに愛された馬など様々な馬が登場する。その数、実に一五六頭。本書の前著『アイドルホース列伝』で紹介した一〇一頭のおよそ一・五倍の馬が紹介されている(しかも、被りはなし)。昭和、平成か

ディスクラシック勝ち馬テオレームも、二〇一三年にコントレイル産駒の牡馬を産んだ。金沢の地を駆けた血統が、同じ金沢の地で躍動するのを楽しみにしたい。

競馬を嗜むファンは追いかけたあのアイドルホースを、令和から競馬を楽しむファンは未知のアイドルホースを知ることができ、思い出しながら知識に浸り、楽しむ事ができる一冊。一頭辺り一〜四ページにまとめられているので読みやすく、気軽にアイドルホースを知ることができ

そして、本紙『遊駿+』のヘンシューチヨも三頭の馬について寄稿している。金沢の馬どころか金沢で走った事すらないのに金沢の事を交えて書いた物もあり、その辺りも楽しんでいただければ幸いです。

九月二六日より発売。お求めは全国の書店、インターネットショップにてどうぞ。

(一三五〇円+税)

